

第32号

酪農

とちぎ



孟秋

九月になりますと、蒸し暑い日としのぎやすい日が交互に訪れるようになりま  
す。野や山には、秋の訪れと  
ともに野花が可憐な花をつ  
け、騒がしくも美しい虫の  
音に満ちた季節の訪れです。  
皆様におかれましては、  
秋の収穫作業のなか、忙し  
くも喜びある日々をお送り  
と思いますが、手順を守り  
確実な作業に心掛け下さい。  
組合においては今年度も  
約半年を過ぎ、各事業の実  
績を踏まえ計画達成に向け  
努力してまいります。  
また、「とちぎファームフエ  
スタ2005」の成功に向  
け、諸準備を進めておりま  
すので、ご協力をお願い致  
します。



# 「とちぎファームフェスタ2005」

## いよいよ十一月三日開催

「とちぎファームフェスタ2005」第十二回全日本ホルスタイン共進会栃木大会・第四回全日本ジャージー共進会栃木大会)の開催が目前に迫り、事務局も連日、最後の準備に追われています。「ミルクの国宣言!」をテーマとし、

全国第二位の生乳生産量を誇り、自然の恵み・豊かな酪農県であること、を県民や全国に発信し、来県を呼び掛けています。県民の皆さんには、新聞・報道等を通じて紹介しているところですが、皆さんからも知人・友人達に是非PR下さる様お願いします。



本共進会の最終選考会が九月二十一日開催されますので、次号で改めて紹介します。



# 篠田修紀氏 (JETファーム会長) 毎日農業大賞に輝く



第五十四回全国農業コンクール全国大会 (毎日新聞)

・岡山県主催)が、七月二十一日に岡山シンフォニーホールに関係者及び一般参観者約千二百人が参加して開催され、本組員、篠田修紀氏(市貝町・JETファーム会長)が名誉ある、グランプリ(毎日農業大賞)及び、名誉賞(農林水産大臣賞)を受賞されました。

農業コンクールは、新しい農の時代をひらく」をメインテーマとし、全国の都道府県から選出された二十名が、斬新な発想から生み出された創意や工夫事例などを発表し、相互研鑽を目的に開催されましたが、篠田会長は、「安全・安心を追求した大型乳肉複合経営の実践」と題し、北海道から昭和六

十三年に現在の牧場へ移り、乳肉複合経営に乗り出し、非遺伝子組替え飼料を使用するなど品質管理を徹底し、ISO認証を取得するなど、「食の安全・安心」への取組み経緯を発表し、今後の経営方針として飼料を自ら生産し、自給率を高めた乳肉複合経営のモデルを作りたいとの抱負を語られました。

### JETファーム概要

- 芳賀郡市貝町大字刈生田
- 乳牛 約二千五百頭
- 肥育牛 約四千頭
- 乳肉一貫複合経営
- ISO9001認証取得
- 全農安心システム認証取得
- 非遺伝子組替え飼料の使用・トレーサビリティ等を実施

わが国最大規模のギガファームとして知られたJETファームの受賞を祝福し、更なる発展を祈念申し上げます。



## 両陛下、紀宮さま 有本牧場を視察

天皇・皇后両陛下と紀宮さまは九月一日、本組合員の有本牧場（那須町寺子乙）に立ち寄り、牛舎や水田を視察されました。

両陛下と紀宮さまは、同日昼過ぎ、静養のため那須御用邸に到着した後、午後四時頃に有本牧場に到着、牛のふん尿から堆肥を作り水田へ還元し稲作に生かす、有機農法を視察するために訪れました。両陛下、紀宮さまは到着後直ちに牛舎を視察され、天皇陛下は牛をなでながら、与えている飼料について質問をされました。また、良



質な生乳を生産する方法などについても関心を持たれました。水田を視察した際には、

牛から堆肥を作り、どの様に水田へ還元しているのか、また、水田の除草方法についても質問されました。

視察を終えた両陛下、紀宮さまは、有本牧場の水田で収穫されたコシヒカリのおにぎりと、自宅から程近い余笹川でとれた鮎を使った昆布巻きを召し上がりながら、平成十年八月に発生した那須水害を撮影した写真をご覧になり、自然の脅威にあらためて驚かれた様子でした。

有本孝之さんは「緊張したが、自然に接して頂きありがたかった。また、牛乳を召し上がりながら、甘くて美味しいですね。」と紀宮さまからお言葉を頂き感激しました。また、両陛下は有機農法や農薬等についても尋ねられ、食の安全・安心についても関心を持たれていました。今後も食の安全・安心を第一に邁進したい。」と感想を語っております。

## 「HACCP方式」 酪農研修会開催

去る七月二十八日、塩谷地方農業共済組合において、日本大学医学博士の酒井建夫先生を講師に迎え、「HACCP（危害要因・重要管理点）方式に関して」と題し組合員他四十名余りが参加し、研修会を開催しました。

研修会に先立ち赤堀参事は「消費者は牛乳の生産現場にも安全・安心を求めている、生産性環境整備や生産履歴記帳が重要となって



いる。本研修会を通じ、安全・安心な良質乳の生産に推進する啓蒙普及に役立ててほしい」と挨拶しました。

この後研修会に入り、各法令改正の経緯、実施すべき必要性、生産段階における管理基準等のガイドラインなどを分かり易く説明して頂きました。また、これらを実施し、今後の酪農経営を乗り切つて欲しいとのコメントでした。



# 海外研修報告

国境を越えた食文化や農業

栃木県立小城北桜高等学校  
都市園芸科三年 國母 苗並



國母 苗並さん

私がお世話になったFantazia家は、お父さん(水道関係の仕事)、お母さん(看護師)、中学三年のチエルシー(十五歳)小学六年生のトラヴィス(十二歳)の四人家族でした。Fantazia家は、非農家のため、農業の体験はできないので、お父さんとお母さんが私のために、事前にも他のホストファミリーの人たちと見学へ行く所を決めておいてくれました。滞在中、酪農家三戸と工場四社、スイカを出荷している野菜市場と私が関心を持つような所に連れて行っていただきました。

仕事をしながら何キ口も遠い見学先まで連れてっていただいたり、

私の口にあうように日本食までインターネットで調べて作ってくれたり、とても感謝しています。

私の家は、酪農家なので、三戸の酪農家の見学が一番興味がありました。私の近所では、十戸の酪農家があり、その内九戸の酪農家は繋ぎ飼いで、自宅の敷地内で飼育している環境です。

我が家では、規模拡大のため自宅から離れた所に、フリーストール、パラー式で管理しています。労働力は両親の二人だけなので、アメリカの酪農家に比べると、中規模のようです。日本の酪農家の七割は繋ぎ飼いで、三割程度しかフリーストール、フリーバン牛舎は普及していないと母から聞きました。日本では、小・中・大の三通り規模の酪農家に分類されます。特に、狭い土地で牛を飼っている酪農家が多いそうです。牛舎の作りも大きく異なり、開放的な牛舎も少なくありません。日本でもメガファームと言われる、大規模な牛舎が増えてきていると両親から聞いていました。私は今まで国内で、実際にこの牛舎を見る機会がありませんでした。今回のアメリカに行つてその牛舎をぜひ見

学したいと希望していました。

私は酪農家を見学しに行くまでは、アメリカでも、小規模、中規模、大規模と三通りに区分された経営規模のイメージを持っていました。実際、見学したうち一戸の酪農家では、私の家と同じ搾乳の仕方になっており、とても親近感を感じました。特に、大規模経営「メガファーム」は、育成牛と成牛を合わせると、二千頭もあり、うち五百頭が搾乳牛です。搾乳は、四台のロボットが行っています。その機械の設備の凄さに驚き、今すぐ両親に見せてあげたいと思いました。特に凄いなと思った点は、搾乳された牛乳が地下を通り、クーラーの中に入っていくというシステムでした。両親からは「日本でもロボットを導入して、酪農経営をしている先進的な酪農家もいる」と聞いていましたが、実際に目の当たりにしてその技術や規模など、驚きの連続でした。その他にも、開放的というか、ただ屋根がかかっているだけの様に見えるものまでありました。

広い土地の中に建つ牛舎は、自宅とは遠く離れ、とてもいい環境の中で牛が飼われていると感じま

した。

ここで生産された牛乳は、チーズ工場に出荷され、おいしいチーズに加工されるそうです。チーズ工場に見学に行き、メンバーでチーズ作り体験を行う機会がありました。チーズ工場の他にも、アーモンド工場、チョコレート工場、ワイン工場など、日本では見ることができない工場を、見せていただきました。広い工場で、大量の農作物が各工場に、それぞれ加工されていくさまは、とてもダイナミックでした。この大量の農作物は、農家の方がどのように管理をして、育てたのかなと思いがら見ていました。それはやはり、風土の広さの違いでしょうか？何を見ても、スケールの大きさには驚くことばかりでした。

最後に、このような経験ができたのも、引率の先生を始め、家族の協力や高校の先生の応援があったからです。ともに三週間、アメリカのカリフォルニア州で過ごしたFFJメンバーは私の一生の宝物となるでしょう。FFJメンバーが一緒だったからこそ励みにもなり、三週間の研修を乗り越えることができました。



# 東西南北

## 那須高原支所

### 女性会研修会

女性会大田原支部（七月十四日）、  
塩原・西那須野支部（七月十九



塩原・西那須野支部



大田原支部

日）は、各々東京方面への研修会を行いました。車中では、支部長から女性会の統一テーマを支部員に伝えるとともに、酪農関連の近況について話して頂きました。大田原支部は、

ニューオータニでの昼食・相田みつを美術館・宝塚を観賞しました。また、塩原・西那須野支部は、横浜中華街・深川江戸資料館・浅草など散策しました。各研修会は、支部員の親睦を深めるとともに、教養を高める良き研修会となりました。

## 宇都宮支所

### 女性会那須南支部

#### 『強化哺育』研修

去る七月十三日、荒井京子支部長をはじめ総勢二十八名の参加で全酪連矢吹教育センターへ『強化哺育』の研修に出発しました。

朝のうちはパラパラと雨が落ちていましたが、いつの間にか晴天に変わっていました。女性の秘めた力のお陰でしょうか？

一時間の研修予定でしたが、熱心に質問が飛び交い、かなりの時間をオーバーした実のある研修となりました。

「この研修を活かし、後継牛確保の基礎となる『強化哺育』に頑張ろう。」と個々に思いながらの帰



い出が増えました。

## 栃木県南支所

### 『第四回全体交流会開催』

七月十二日（火）二宮町運動公園にて、組合員と家族、相馬副組合長をはじめ招待者等百十名余りが参加し、全体交流会が盛会に開催されました。

午前中は地区対抗ソフトバレーボール大会が二リーグに分かれ、熱戦が展開された結果、偶然にも地元「二宮町沖チーム」と「二宮町谷貝新田チーム」の二チームが優勝されました。皆さん、気持ち

路となつた様子でした。帰りに立ち寄った南湖公園の三色だんごの美味しかったこと。またひとつ思

の良い汗を流されたことでしょうか。競技後、あいにくの天候だったので、会場を体育館の二階にし、「那須だいき牛乳」で乾杯後、ご馳走を囲み歓談しながら楽しいひと時を過ごしました。

また、ピングゲーム・ジャンケン大会では、協賛品、酪農備品等の賞品をゲットする度に歓声がわき、おおいに盛り上がり、締めは山口文男委員の万歳三唱で交流会がお開きとなりました。

今回で四回目となる全体交流会を通じ、組合員相互の親睦をさらに深められました。来年も多数の参加を頂けるように、新企画等内容の充実に努めたいと存じます。



# 部課だより

## 生乳販売課

飲用牛乳消費前年割れ！

生乳の生産は、依然として前年実績を下回る傾向で推移しておりますが、七月についても九八・八%と前年を下回りました。

支所別にみると、七月は那須高原支所においては九八・六%、宇都宮支所においても九七・九%、県南支所においては一〇〇・二%と二支所で前年を下回る実績となりました。

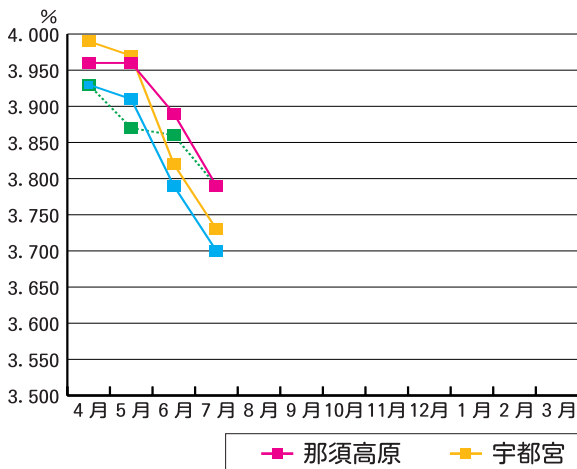
全国の生乳生産動向については、七月は北海道が一〇〇・一%、全国では九九・七%で、累計では九八・七%となりました。関東においては九九・一%とやや回復しましたが、まだ前年に比べ減少傾向が続いております。

生乳需要の動向においては、飲用牛乳向けは相変わらず低迷（五

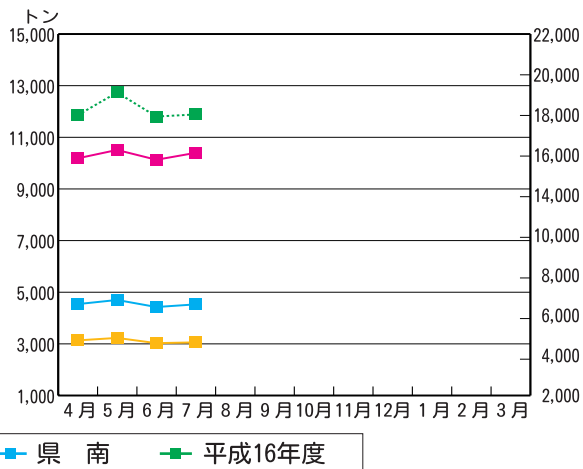
・一%減)し、醗酵乳向けについては四・二%増と回復傾向を示

ておりますが、飲用需要の回復傾向には到っており、現在行なっ

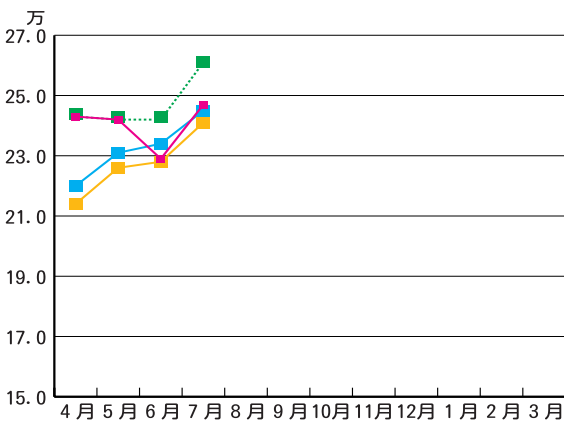
◆ 脂肪率の推移



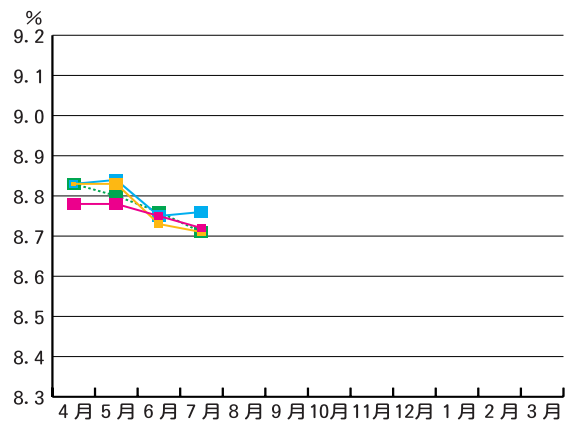
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



## 酪農部

### 女性会本部役員研修会

去る八月四日、福島県須賀川市の堆肥化処理施設「三風」にて女性会本部役員研修会を行いました。昨年十二月開催の女性会全体研修会において小泉武夫先生が推薦した吉田一郎氏が、二十年來の構想

ている消費拡大キャンペーン「牛乳に相談だ」による飲用需要の回復に期待されるところです。  
特定乳製品向けについては、生乳生産量が前年を下回ったにもかかわらず二・五%増と前年を上回っております。  
組合における乳質成績は、脂肪率が前年同様三・七六%、無脂固形分率は前年を上回り八・七三%となりました。細胞数については前年値を一・五万下回る（二四・六万）好成绩となりました。  
七月迄の乳量及び乳質成績は上記のとおりです。





を経て今年  
二月に完成  
したハザカ  
式プラント  
システムで  
す。幅三m  
深さ二m長  
さ一〇〇m

のレーン状の醗酵槽に、あらゆる有機性廃棄物を醗酵原料として投入し、攪拌・移動しながら二十五日の短期間で高品質の完熟堆肥が完成します。施設内は八工や悪臭が全くなく、堆肥を使用した農家からは通常より良質の作物が出来たと好評を得ています。

吉田氏は、無料で近隣の学校給食の残りを堆肥にして花壇に還元



することを  
近々始める  
予定で、他  
にも視察の  
受入れ等に  
よって、子  
供達が環境



・農業・食物について学びたい  
けにしたいと考えています。また、  
完熟堆肥は土にとって漢方薬のよ  
うなものであり、地域の農家と協  
力して健康な土と農作物づくりの  
為に努力したいとのことでした。

今回の研修会は、役員同士の交  
流と研鑽を深める非常に有意義な  
研修会でした。

### 青年部親善球技大会開催

### 那須AチームAブロック優勝



第四回酪農  
とちぎ青年部  
親善球技大会  
が七月二十五  
日(月)に那須  
塩原市 三島  
体育センター

## 青年部親善球技大会結果

那須塩原市 三島体育センター

ブロック	優勝	準優勝	第3位
Aブロック	那須 A	黒磯 A	大田原
Bブロック	那須 B	塩谷	宇河・今市
Cブロック	芳賀	塩原・西那須野	黒磯 B
Dブロック	那須南	河内南部・下都賀	那須 C

にて開催されました。  
台風の影響で、予定されていた  
ソフトボールを中止し、ソフトバ  
レーに切替えて開催しましたが、  
九支部から十二チームが参加し、  
白熱した試合が展開されました。  
球技大会で初めてソフトバレー  
を行いました。少し勝手が違う  
のか珍プレーが続出し、笑いと声  
援の中、楽しく汗を流す事が出来  
ました。

試合結果は、別表の通りです。

## 8月ホクレン初妊牛市場成績

(単位:頭,千円(税込))

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	年齢別					
				~350	351~400	401~450	451~500	501~550	551以上
根室	8月18日	482	483	2	16	91	200	158	15
釧路	8月19日	224	488	4	14	34	53	98	21
十勝	8月23日	527	487	8	31	69	196	177	46
豊富	8月25日	252	485	0	11	49	89	86	17
北見	8月31日	333	474	3	41	73	115	67	34
合計		1,818	483	17	113	316	653	586	133
前月		1,514	478	34	77	305	580	404	114
前年同月		1,725	489	21	85	285	632	554	148

## 家畜市場成績

平成17年8月

(単位:円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	価格		
				最高	最低	平均
西那須野	ホルス雄	138	-	138,600	110	39,901
	F1雄	84	-	194,850	108,150	161,338
	F1雌	71	-	137,550	29,400	99,070
館林	ホルス雄	10	70	57,000	32,000	52,000
	F1雄	11	72	204,000	149,000	182,818
	F1雌	8	72	123,000	89,000	111,625



# 理事会だより

## 七月度理事会

### 報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 七月分生産者支払乳価について
- (三) 関連会社(栃木明治牛乳株)の業務報告について

### 協議事項

- (一) 農業近代化資金貸付について
- (二) 六月度及び四、六月度事業実績について
- (三) 専門委員会分担について
- (四) 固定資産処分について
- (五) 固定資産(土地)の賃貸について

## 八月度理事会

### 報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 資本造成について
- (三) 協議事項
- (一) 七月度事業実績について
- (二) 農業近代化資金貸付について
- (三) 平成十七年度生産者支払乳

価及び八月分生産者支払乳価について

- (四) 集乳車のリース契約について
- (五) 専門委員会分担及び正副委員長の互選について
- (六) 栃木県南支所建設推進について
- (七) 総代選挙の施行について

## お知らせ

### 「牛乳に相談だ。」

### キャンペーン

テレビCM、パソコン・携帯のホームページ、ポスター、シールなどのグッズを用い「牛乳に相談だ。」キャンペーンが実施されています。目的は、今の中高生が余り関心を持っていない牛乳に関心を持ってもらうこと、その上で牛乳のことをもう少し知ってもらうことです。キャンペーンは中高生の生活パターンをリサーチし、興味をもってもらえるように考えてあるようです。

色々なグッズが少しでも中高生の目に留まるようご協力ください。牛乳の消費向上のため、みなさんで盛り上げて、みなさんでPRしていきましょう。



## ハーフ・タイム



九月に入ると秋の気配を感じる。日中はまだ暑さ厳しいが、ススキがなびく夜風はさわやかだ。心配した台風被害も避け、残暑のなかコーン収穫真っ最中、そして稲刈りと続く収穫の秋を迎えた。

十九日は敬老の日。各地で長寿を祝う多彩な慶事が催された。長寿国ニッポンを自負するわが国の平均寿命をさらに更新した。二〇〇四年のわが国の平均寿命は、女性が八五・五九歳と二十年連続世界第一位(二位香港八四・三歳)に、男性も七八・六四歳と同第二位(一位アイスランド七八・八歳)を保持している。

しかし、わが国人口は、年々減少傾向にあり、間もなく「人口減少化時代」が到来する。非婚・晩婚・少子化等の影響によるが、人口の減少が進めば労働力の低下・税の負担増・地域社会の活力減退等

を誘発し、高齢化と共に大きな社会問題を抱えることになる。

また今月は「がん征圧月間」でもある。わが国の三大疾病と言われる、がん・心筋梗塞・脳卒中。依然として、がんによる死因が第一位を占めている。

誰しも、健康体でありたい願望だが、病魔は至る所にまつわりついている。自分だけががんになるまいと健康管理に努めているが、侵されないという保障はない。

健康の秘訣、規則正しいリズムミカルな生活・栄養バランスを保つ食事・適度な運動・十分な睡眠等承知はしているが、なかなか実行が伴わない。こんな折、先頃、健康センターから「がん予防8か条」が示されたので紹介します。

### がん予防8か条

たばこを吸う人は禁煙。吸わない人も、他人のたばこの煙を可能な限り避ける。

適度な飲酒。具体的には、日本酒換算で一日一合(ビールで大瓶一本)以内。飲まない人は

無理に飲まない。

野菜・果物を少なくとも毎日四〇〇グラム取るようにする。例えば、野菜は毎食、果物は毎日取る。

塩蔵食品・塩分の摂取は最小限。具体的には、食塩として一日一〇グラム未満、塩辛や練りウニなどの高塩分食品は週に一回以内。

定期的な運動の継続。例えば、毎日六〇分程度の歩行などの適度な運動、週に一回程度は汗をかくような激しい運動。

成人期での体重を維持(太りすぎない、やせすぎない)。具体的には、BMI(体重を身長<sup>2</sup>で割った値)が27を越さない、20を下回らない。

熱い飲食物は最小限に。例えば、熱い飲料は冷ましてから飲む。肝炎ウイルス感染の有無を知り、その治療(感染者)や予防(未感染者)の措置を取る。

以上の指標をひとつずつ励行し、定期検診・早期発見・早期治療に心がけたい。(Y)